

埼玉県医療的ケア児保育支援事業補助金交付要綱

(交付の目的)

- 第1条 この補助金は、人工呼吸器を装着している児童その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある児童（以下「医療的ケア児」という。）が、保育所等の利用を希望する場合に、受入れが可能となるよう、保育所等の体制整備を行い、医療的ケア児の地域生活支援の向上を図ることにより、子どもを安心して育てることができる環境整備を促進することを目的とする。
- 2 前項の補助金の交付に関しては、予算の範囲内において交付するものとし、保育対策総合支援事業費補助金交付要綱（令和6年7月31日付けこ成保第729号こども家庭庁長官通知「令和6年度（令和5年度からの繰越分）保育対策総合支援事業費補助金（保育所等改修費等支援事業等（令和5年度補正予算分））の国庫補助について」及び令和6年10月4日付けこ成保第805号こども家庭庁長官通知「保育対策総合支援事業費補助金の国庫補助について」別紙（以下「国要綱」という。））及び補助金等の交付手続等に関する規則（昭和40年埼玉県規則第15号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(交付の対象)

- 第2条 この補助金の交付の対象は、「埼玉県医療的ケア児保育支援事業実施要綱」に基づいて実施する事業とする。

(交付額の算定方法)

- 第3条 この補助金の交付額は、別表に定めるところにより、次により算出された額の合計額とする。ただし、算出された施設ごとの算出額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。
- (1) 施設ごとに、別表第1欄に定める基準額と別表第2欄に定める対象経費の実支出額を比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを施設ごとに比較して少ない方の額を選定する。
- (2) (1)により選定された額に $\frac{3}{4}$ （医療的ケア児の受入体制に関して、3年後の医療的ケア児の受入人数（見込み）が、保育所等の利用を希望する人数（見込み）を上回る医療的ケア児受入体制整備計画書兼実績報告書を策定する市町村については、 $\frac{5}{6}$ ）を乗じて得た額の合計額を交付額とする。ただし、別表第1欄に定める基準額に第3欄の補助率を乗じて得た額を超えることはできない。

(交付の条件)

第4条 補助金の交付には次の条件を付するものとする。

- (1) 事業内容の変更(軽微な変更を除く。)をする場合には、知事の承認を受けなければならない。
- (2) 事業を中止し、又は廃止する場合には、知事の承認を受けなければならない。
- (3) 事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難になった場合には、速やかに知事に報告してその指示を受けなければならない。
- (4) 事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価50万円以上の機械、器具及びその他の財産については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号。以下、「適正化法施行令」という。)第14条第1項第2号の規定によりこども家庭庁長官が別に定める期間を経過するまで、知事の承認を受けずに、この補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。
- (5) 知事の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を県に納付させることがある。
- (6) 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。
- (7) 補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合(仕入控除税額が0円の場合を含む。)には、速やかに知事に報告しなければならない。
また、補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を県に返納しなければならない。
- (8) 市町村は、補助金と事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ調書及び証拠書類を補助金の額の確定の日(事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日)の属する年度の終了後5年間保管しなければならない。
ただし、事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価50万円以上の機械、器具及びその他の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適正化法施行令第14条第1項第2号の規定によりこども家庭庁長官が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかななければならない。
- (9) 市町村が(1)から(8)により付した条件に違反した場合には、この補

助金の全部又は一部を県に返納させることがある。

(10) 市町村が事業者に対して、この補助金を財源の一部として補助金を交付する場合には、次の条件を付さなければならない。

ア 事業内容の変更（軽微な変更を除く。）をする場合には、市町村長の承認を受けなければならない。

イ 事業を中止し、又は廃止（一部の中止、又は廃止を含む。）する場合には、市町村長の承認を受けなければならない。

ウ 事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難になった場合には、速やかに市町村長に報告してその指示を受けなければならない。

エ 事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価30万円以上の機械、器具及びその他の財産については、適正化法施行令第14条第1項第2号の規定によりこども家庭庁長官が別に定める期間を経過するまで、市町村長の承認を受けずに、この間接補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。

オ 市町村長の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を市町村に納付させることがある。

カ 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。

キ 補助事業完了後に消費税及び地方消費税の申告により間接補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合（仕入控除税額が0円の場合を含む。）には、速やかに市町村長に報告しなければならない。

また、間接補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を市町村に返納しなければならない。

ク 事業に係る収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、当該帳簿及び証拠書類を補助金の額の確定の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後5年間保管しておかななければならない。

ただし、事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに事業により取得し、価格が単価30万円以上の機械、器具及びその他の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適正化法施行令第14条第1項第2号の規定によりこども家庭庁長官が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかななければならない。

ケ 事業を行うために締結する契約については、一般競争入札に付するなど

市町村が行う契約手続の取扱いに準拠しなければならない。

- (11) (10) により付した条件に基づき、市町村長が承認又は指示する場合には、あらかじめ知事の承認又は指示を受けなければならない。
- (12) 事業者から財産の処分による収入及び間接補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額の全部又は一部の納付があった場合には、その納付額の全部又は一部を県に納付させることがある。
- (13) 事業者が (10) により付した条件に違反した場合には、この補助金の全部又は一部を県に返納させることがある。

(申請手続)

第5条 規則第4条第1項の申請書の様式は、様式第1号によるものとし、その提出期限は、別に定める。

2 規則第4条第2項第1号から第4号までに掲げる事項に係る書類の添付は要しない。

(変更申請手続)

第6条 この補助金の交付決定後の事情の変更により、申請の内容を変更して交付申請を行う場合には、前条の規定を準用する。

(交付の方法)

第7条 この補助金は、知事が必要と認める場合において、概算払をすることができるものとする。

(交付決定通知書)

第8条 規則第7条の交付決定通知書の様式は、様式第2号のとおりとする。

(状況報告)

第9条 補助金の交付決定を受けた市町村の長は、知事の要求があったときは、補助事業の遂行状況について、当該要求に係る事項を書面で知事に報告しなければならない。

(実績報告)

第10条 規則第13条の事業実績報告書の様式は、様式第3号のとおりとし、その提出期限は、補助事業完了後（第4条第2号により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理後）7日以内、または補助金の交付を受けた会計年度終了の日のいずれか早い期日とする。

(補助金の額の確定)

第11条 規則第14条の確定通知書の様式は、様式第4号のとおりとする。

(補助金の返還)

第12条 県は、交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、期限を定めて、その超える部分について返還することを命ずる。

(その他)

第13条 この要綱に定めるほか、補助金の交付に関し必要な事項は別途知事が定める。

附 則

この要綱は、平成29年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成30年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和元年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和2年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和3年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和4年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和5年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、令和5年11月29日から適用する。

附 則

この要綱は、令和6年度分の補助金から適用する。

別表

1 基準額	2 対象経費	3 補助率
<p>1. 基本分単価</p> <p>(1) 看護師等を配置して医療的ケアを行う場合 1か所当たり 年額 5,290,000円</p> <p>(2) 看護師等を配置せず、保育士等が医療的ケアを行う場合 1か所当たり 年額 4,950,000円 ※ただし、2名以上の医療的ケア児の受け入れが見込まれる保育所等において、看護師等を複数配置している場合は5,290,000円を、保育士等を複数配置している場合は4,950,000円を加算する。</p> <p>(3) 巡回による看護師配置を行った場合（医療的ケア巡回型） 1自治体あたり 年額 5,010,000円</p> <p>2. 加算分単価</p> <p>(1) 研修受講支援加算 1か所当たり 年額 300,000円 ※看護師等及び保育士等が認定特定行為業務従事者となるための研修以外の研修を受講する場合も対象とする。</p>	<p>医療的ケア児保育支援事業を実施するために必要な報酬、給料、職員手当等、賃金、共済費、報償費、旅費、需用費（消耗品費、会議費、印刷製本費）、役務費（通信運搬費、手数料）、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、補助金及び交付金、受講料</p>	<p>3 / 4</p> <p>(注)</p> <p>5 / 6</p>

<p>(2) 保育補助者配置加算 1 か所当たり 年額 2,232,000 円</p> <p>(3) 医療的ケア児保育支援者 配置加算 1 市町村当たり 年額 2,232,000 円 ※ただし、看護師等又は喀 痰吸引等研修の課程を修了 した者が担う場合、1 市町 村あたり 130,000 円を加算 する。</p> <p>(4) ガイドライン策定加算 1 市町村当たり 年額 577,000 円</p> <p>(5) 検討会等設置加算 1 市町村当たり 年額 360,000 円</p> <p>(6) 医療的ケア児の備品補助 1 か所当たり 年額 100,000 円</p> <p>(7) 災害対策備品整備 1 か所当たり 年額 100,000 円 ※(1) 研修受講支援加算、 (4) ガイドライン策定加 算、(5) 検討会等設置加算 は単独で補助することを可 能とする。</p>		
---	--	--

(注) 医療的ケア児の受入体制に関する以下の要件を満たす医療的ケア児受入体制整備計画書兼実績報告書を策定する市町村については補助率を5/6とすることができる。

・医療的ケア児について、3年後の保育所等での受入人数(見込み)が保育所等の利用を希望する人数(見込み)以上であること。